

# 子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal dietary zinc intake during pregnancy and childhood allergic diseases up to four years: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中の母親の亜鉛摂取量と4歳までの小児アレルギー疾患

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Nutrients

年: 2023

DOI: 10.3390/nu15112568

筆頭著者名: 羊 利敏

所属 UC 名: メディカルサポートセンター

目的:

妊娠中の亜鉛摂取と小児アレルギー疾患の関連については、十分に明らかになっていない。本研究では、妊娠中の母親の亜鉛摂取量と生まれた子どもの4歳までの小児アレルギー疾患の発症との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、単胎児 74,948 名を対象とし、妊娠中の母親の食事調査で把握した亜鉛摂取量と生まれた子どもの4歳までの小児アレルギーに関するデータを用いた。小児アレルギーの有無は、調査票の回答、保護者の申告もしくは医師の診断による症状の有無から判断した。エネルギー調整した亜鉛の摂取量で対象者を 5 群に分け、小児アレルギーとの関連について、ロジスティック回帰分析で検討した。

結果:

交絡因子で調整後、妊娠中母親の亜鉛摂取量と、4歳までの小児アレルギー(喘めい、喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、食物アレルギー)発症との間には有意な関連が認められなかった。

考察(研究の限界を含める):

研究の限界としては、1)子どものアレルギーの情報は質問票より得られたものであること、2)食事による亜鉛摂取量は、必ずしも母体中の亜鉛レベルを反映する良い指標とはいえないこと、3)母親の亜鉛摂取量は食物摂取頻度調査法に従って計算されたものであり、正確性に欠ける可能性があることなどが挙げられる。

結論:

母親の妊娠中の亜鉛摂取量と生まれた子どものアレルギー発症には、有意な関連は認められなかった。亜鉛とアレルギーの関連性については、体内の亜鉛の状態を示すバイオマーカーを用いた検討が必要であると思われる。